中小融資枠 2.5兆円に拡充

都が補正予算案を公表

事業者への「協力金」第2弾

東京都は19日、新型コロナウイルス感染拡大防止と経済社会活動との両立を図るための対策を盛り込んだ総額5832億円の2020年度補正予算案を公表した。都議会公明党（東村邦浩幹事長）が15日に小池百合子知事に緊急要望した内容が随所に反映されている。

感染拡大で経営が悪化する中小企業から、制度融資の申し込みが殺到している現状を踏まえ、今年度の融資枠を1兆5000億円から2兆5000億円まで引き上げる。また、大型連休明けの今月7日以降も、都の休業要請に全面的に協力した事業者に対し、第2弾となる「感染拡大防止協力金」を追加で支給する。

医療機関などに向けた支援では、マスクを追加で1億200万枚確保し、宿泊療養施設やPCRセンターにも提供する。さらに、感染患者を一時的に受け入れる医療機関に支払う謝金を増額する。医療従事者に1日当たり1人3000円の特殊勤務手当を支給する医療機関に対しては支援期間を延長する。

一方、70歳以上の都民が取得し都営交通などに乗車できる「シルバーパス」の一斉更新に関して、感染リスク軽減のため、臨時会場方式から郵送方式に変更する費用を盛り込んだ。27日から開会する都議会第2回定例会で補正予算案が審議され、成立する見通し。

＝関連記事7面

都補正予算案の主な事業

- 中小企業緊急融資枠を2.5兆円に引き上げ
- 事業者に2回目の「感染拡大防止協力金」支給
- 医療機関などへマスク1億200万枚を追加提供
- 感染患者を受け入れた病院への謝金増額
- 医療従事者への特殊勤務手当（1日3000円）の期間延長
- シルバーパス（約100万人分）を郵送で更新
- テレワークを導入した企業への補助を拡充

活動自粛のアーティストら 専用サイトで動画配信

出演料を支給、応援

東京都

文化芸術の灯を絶やしてなるものか――。東京都はこのほど、新型コロナウイルスの感染拡大により、活動を自粛するプロのアーティストやスタッフらを支援するため「アートにエールを！ 東京プロジェクト」を立ち上げた。

このプロジェクトは、感染拡大を防ぐためにイベントなどが中止となり、自粛せざるを得ないアーティストらから、Web上で配信する作品を募集するもの。

制作した人に対して、出演料として1人10万円を支給。出演者が複数の場合は、1作品当たり、100万円を上限に支給する。

対象者は、音楽、演劇、舞踊などに関わり、主に芸術文化活動による収入で生計を維持しているプロのアーティストや俳優、スタッフなど。都内居住者または都内を主な活動拠点にしていることが条件となる。

1作品最大100万円

作品は、個人または10人以内のグループで創作した未発表のもので、スマートフォンでの撮影や、絵画など静止画のスライドショーも応募可能。5～10分程度を目安とし、都はダンスや音楽演奏、専門分野についてのトークなどを想定している。制作に当たっては、「3密」（密閉、密集、密接）を避けるよう呼び掛けている。

都の担当者は「活動自粛中のアーティストやスタッフらを支援するとともに、自由な発想を生かした創造的な作品を通じて、都民に安らぎや感動を提供していきたい」と話していた。

文化芸術の振興に力を入れてきた都議会公明党（東村邦浩幹事長）は、緊急要望や議会質問を通じて、感染拡大で影響を受けたアーティストに支援するよう求めていた。

応募が殺到 事業を拡充へ

都は15日、プロジェクトへの応募受け付けを31日までの予定で開始したが、応募者が殺到し、同日午後6時に募集を締め切った。都によると、もともとの上限は4000人だったが、これを大幅に上回る1万6000人の応募があったという。

都議会公明党は同日、想定数を超えた希望者も参加できるよう適切な対応を求め、小池百合子知事に緊急要望した。これを受けて、都は19日に発表した新たな補正予算案に、プロジェクトの拡充費を計上。補正予算案は今月開会する都議会の第2回定例会で審議される。

若手オペラ歌手のユニットによる自宅パフォーマンス（都が示した動画作品のサンプルから）

公明新聞2020年5月20日より

文京区議会議員　宮本伸一
H.P.:http://miyamoto-shinichi.net
発行：公明党文京区議団　03－5803－1318